

# 「注文の多い料理店」のグラフ，地図，樹状図

森 田 均

Graphs, Maps, Trees for “The Restaurant of Many Orders”

MORITA Hitoshi

**Abstract:** This article is a by-product of the research on the Hypertext conversion. I evaluated the hypertext by comparing it by using F-measure with other expression forms such as the picture books, and modified evaluation method by a surface analysis of the original text. Franco Moretti suggested the method to construct the macro interpretation model of literature. In this paper I drew the graphs, maps, and tree for the text.

## 1. はじめに

本論文は、文学作品をハイパーテキスト化する際の変換手法と試作の評価方法を確立するために行った研究から派生したものである。この研究は、従来の成果[森田・藤田 01]に基づき、[阿部・他 94]及び[Hobbs 85]を発展させて、宮沢賢治の「注文の多い料理店」を原テキストとし、原テキストの論理構造と修辞の構造を明らかにすることによって、小説をハイパーテキストへ変換する手法を示したものである。試作ハイパーテキストの評価は、精度と再現率を要約するF値を指標として15種類の絵本を始め他の表現形態との比較によって行った。[森田・藤田 03][森田・藤田 04][Morita & Fujita 04]

電子化されたテキストの評価にあたっては、従来一定数の被験者に対して読書時間や読解のプロセスを比較するなどの手法を取ることが一般的であった。その際に被験者の文学的経験など重要な背景情報が捨象されてしまうこと、書籍等の紙媒体とディスプレイ装置による読書を比較することはテキストの内容ではなくデバイスの優劣を被験者の感覚によって問うことにすぎないことには不満を抱いていた。

そこで、ハイパーテキストと従来の表現方法による作品とを修辞の面から比較する手法を模索することとし、比較対象として様々な表現形態を取る作品を網羅的に調査し内容分析を行った。予備的な調査を行ったところ「注文の多い料理店」は、絵本の出版点数が多くコミックやアニメも制作されていることから多様な表現手法を比較する目的に合致していることが判明した。

このようにして研究を推進したが、網羅的な資料の収集により「注文の多い料理店」の受容史にもささやかながら寄与することが可能と思われる成果を得たので以下に示すこととする。本論文では、テキストに対してあくまでも表層的な検討を行う。表層的な研究によってこれまで示された様々な研究成果を補うことにもなり、新たな視点を提供することが可能であることを示すのが最大の目的である。

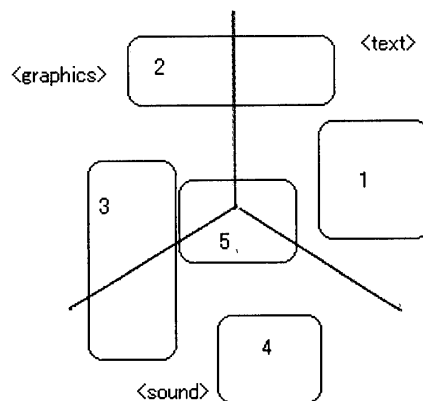
Franco Moretti は、広範囲に渡るテキストの解釈ではなく、文学の一般的なモデルを得るため

にグラフ，地図，樹状図を用いて地理学と生物学の手法を援用することを宣言して文学の論文に様々な図表を取り入れた。[Moretti 03-04]個別のテキストと関わっている全体像の把握など不可能だという考え方である。これに対して従来の文学研究が不可能であった「作る」という観点に迫ることを目的としているハイパーテキスト変換の研究は，個別テキストの表層的な分析という極めてミクロな場面から出発している。それでも以下本論で述べるようにグラフ，地図，樹状図を示すことは可能である。

## 2. 手法の説明

ハイパーテキスト変換の研究では試作と比較する他の表現形態について，原作初版本以来国内外で公表・公刊された当該タイトルによる作品を網羅的に収集調査した。資料収集のために，国立国会図書館目録（NDL-OPAC），国際子ども図書館児童書総合目録，大阪府立国際児童文学館蔵書目録等のオンライン目録の他に[島山 94]，[宮沢賢治イーハトーブ館 95]，[宮沢賢治学会 91-03]，[中西 99]に依拠し，映像作品については[田中 79]，[渡辺 96]を使用した。研究の性質上，目録情報を抽出するのみではなく作品の現物にあたり「注文の多い料理店」が収録された同名の童話集初版本（1924年）以来2003年末に至るまでに公表・公刊された総数241点の分析作業を行った。

比較対象の表現手段における特性は，文字・画像・音声の3要素に基づいて図1にこれらをまとめて相関を表した。なお，脚本と紙芝居に関しては，オーディエンスとしてまたは演者として，3要素の構成が交代することになる。また，「5」と分類したものは，実例としては存在するものの現状ではノベルゲーム等に変化しており，むしろ新たな表現手段を模索するための仮説として位置づけておくべきものである。



<図1：表現手段による構成要素とその相関>

なお，収集した資料を具体的に分類すると以下のようなになる。

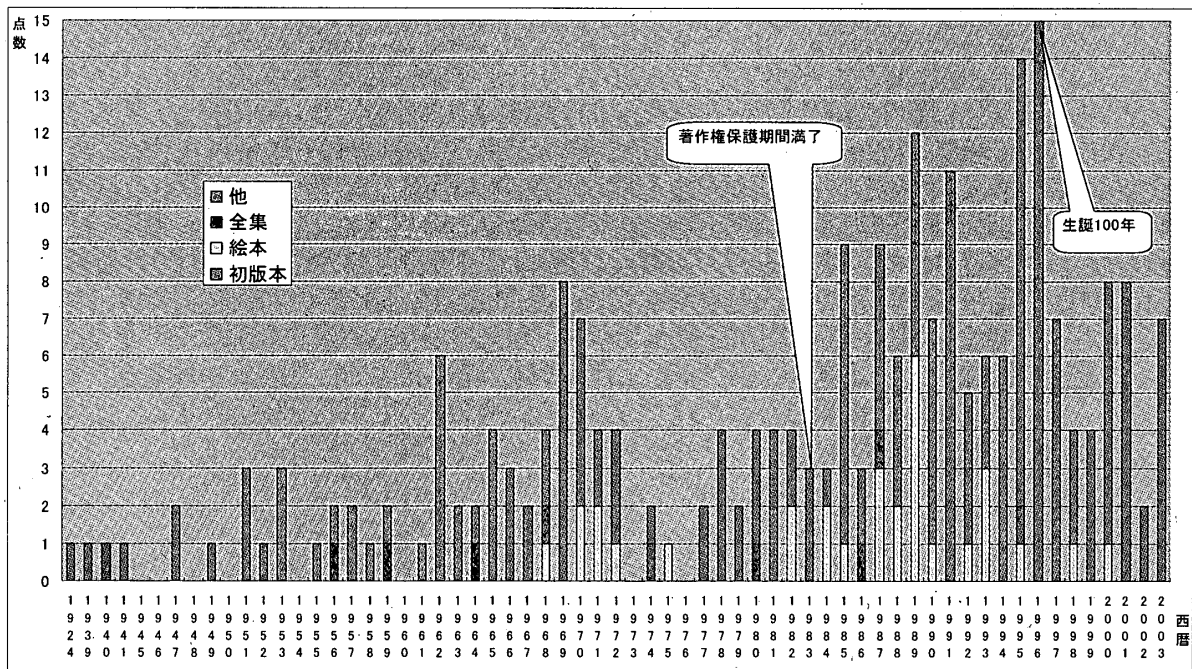
### 文字

- 全集，アンソロジー，文庫
- リフィル
- 大活字本
- 翻案
- 翻訳

- 戯曲，台本
- 画像
  - 絵本
  - 翻案絵本
  - 紙芝居
  - アニメーション
- 音声
  - 朗読（レコード・カセットテープ・CD・朗読ビデオ）
  - 音訳
- 複合
  - CD-ROM（インタラクティブ絵本）
  - Web

### 3. 出版点数の推移<グラフ>

宮沢賢治の作品を出版史から考察する際には、著作権と著作権法の変遷、旧かなから新かなへの移行、全集ブーム、占領期における検閲などが視点として想定できる。



<図2：「注文の多い料理店」出版点数の推移>

図2に示したのは、暦年ごとの出版点数の推移である。全集、絵本の刊行年と点数を際立たせるために表記を積み上げ棒グラフとした。財産権の保護期間と初版本出版以来の10年を加えて60年間の出版点数は、累計で95点、年間の平均刊行点数は1.58である。これに対して保護期間終了後から20年間の出版点数は累計146点、年間平均刊行点数は7.3で年数としては三分の一の期間に4.6倍と急増している。生誕百年を迎えて活発な出版活動が行われたことが影響していたことは明白であるが、特に絵本の点数が急増していることなど、保護期間の前後で大きな差異を示している。

周知のように現行著作権法による文学作品の著作（財産）権保護期間は、作者の死後50年であ

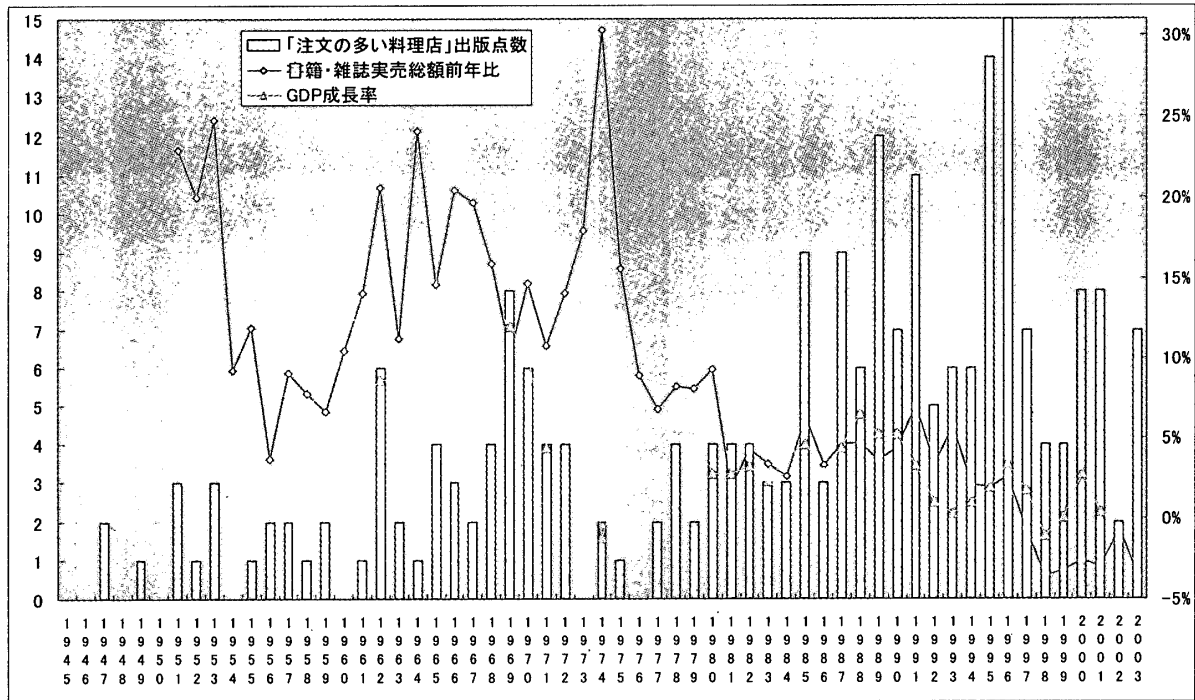
る。宮沢賢治の場合は1983年末を以って財産権の保護期間が終了している。各種の目録を手がかりとしてこれまでに確認出来た「注文の多い料理店」の出版点数は2003年末までに241点である。

1933年以降を没年とする作家は、数次に渡る旧著作権法の改正と新著作権法の施行により保護期間が30年から50年へと延長されて来た。しかし空白期間は生じていないので、法改正により延長措置が取られたことから宮沢賢治という作家は著作権法上特異な存在であるが、保護期間の変化と出版状況を対比して考察することには意義はない。

この他に、旧法から新法への移行によって大きく変化したのは、翻訳権であった。まず、旧法の条文を以下に引用する。旧法において翻訳権は他の財産権と異なる保護期間と保護手段が講じられていたことが明らかになる。「注文の多い料理店」が初めて翻訳されたのは、1967年ジョン・ベスターによる英訳であった。この年は依然旧法の時代であるが、保護期間は満了している。また、翻案としては、雑賀武夫による戯曲が1951年に、堀尾青史（文、絵は北田卓史）による紙芝居が1966年に出版されている。だが、旧法下では外国語への変換としての翻訳と原著作物の改編としての翻案を区別しているのだからこれらは旧法第七条の規定には含まれない。翻訳権は主に外国人による作品を日本国内で翻訳出版する際に行使されるものと想定されていた。[宮田 99]新法では、翻訳権も他の財産権と同様の保護期間となった。ただし、附則によって旧法における翻訳権は留保されている。

次に、宮沢賢治作品出版総数の推移を[中西 99]掲載の「=作品（詩集・童話・絵本など）=」に依拠し一部修正を施したデータから考察した。出版総数では、1948年、1956年、1985年、1996年にそれぞれ過去を上回る点数の出版物があった。図2と比較すると、1970年代半ばに低迷期があること、著作権保護期間満了後に出版点数が急激に伸びていること、生誕100年にあたる1996年に過去最高の出版点数があったことが共通する。

また、図3は景気動向及び出版業界全体の動向と「注文の多い料理店」の出版状況を対比するために[出版科学研究所04]掲載のデータに基づき作成したものである。出版業界は、景気に左右されない独自の動向を示すとされていたが、それは1974年までであり、以降はGDPの成長率と



<図3：経済指標との対比>

それほど変わらなくなっている。特に1996年以降は連続してマイナス成長となっており、「出版に不況無し」という標語はもはや通用していない。注目すべきは、「注文の多い料理店」の出版状況の変化とは何の相関も見出すことができず、GDPにも出版業界の動向にもほぼ無関係に増減していることである。ただし、1996年に関しては10大ニュースの中に「宮沢賢治生誕100年、関連書一斉に出版。常設コーナーも」と記されており、出版業界の動向の中でも注目される現象となっていたことが分かる。

このように増減傾向が矛盾する年が多くなるので、表1に示すように宮沢賢治の生誕や回忌、社会状況をも含めた受容史の中で検討する。まず、生誕・回忌と全集発行には強い相関がある。一周忌あるいは3回忌に符合する「文圃堂版全集」をはじめとして、生誕100年に合わせた「新校本」まで、当該年あるいは1年前を前後して出版が開始されている。宮沢賢治の場合は、生年（1896）と没年（1933）の関係から、回忌・没後・生誕の各年が連続することがある。回忌は数え年、没後・生誕は満年で、加えて著作権保護期間は死亡年月日の翌年元旦から起算することになっており、各年の設定には注意が必要となる。好不況とも連動しており、特に1964年からの高度経済成長期、二次にわたるオイルショック、バブル経済期における増減傾向は顕著である。バブル経済期は、著作権保護期間の満了（1983年）の直後に始まるので出版点数も著しく伸びている。この時期がいかにバブルであったのかは、崩壊直後の低迷ぶりからも明らかであり、1994年には1980年代前半の水準にまで落ちている。ところが、前述したように1996年の生誕100年は特異点となった。

記述が前後するが、「校本全集」（1973年）と「新修全集」（1979年）はそれぞれ第一次と第二次のオイルショックの年に刊行開始となっている。この景気低迷期は、出版傾向も点数、表現形態の多様性と質量ともに低迷している。しかしながら、二つの全集はバブル経済期に出現する出版物の底本とされており、この時期は変化の多様性を迎えるためにテキストを安定させた雌伏の時期と考えることができる。高度経済成長期の出版状況も同じように「31年版全集」が牽引して様々な出版物の底本となつてはいるが、戦中・戦後期におけるテキストの混乱を引き摺っていることが異なる点である。この点に関しては検閲問題と関連させて後述する。

「注文の多い料理店」と関連させると、高度経済成長期には絵本をはじめとする書籍とアナログ方式による映像や音声の表現形態が出現している。景気低迷期に入ると、多様な表現形態は少なくなり、バブル経済期に多様性が復活し世相を反映するようにバインダー式のシステム手帳に挟んで読書するための「リフィル」が出現している。「IT革命」期には、CDやCD-ROMに代表されるデジタル方式による表現形態、インターネット上でコンテンツを配布するWebページが出現した。この時期には他に、視覚や聴覚にハンディキャップを持つ人々のために配慮した表現形態が現れていることも大きな特色である。

<表1：受容史>

	暦年	社 会	宮沢賢治	出 版 状 況	表現形態初出
戦前期	1924		28歳	イーハトヴ童話 注文の多い料理店	左記に収録
	1934		一周忌	(文圃堂版全集)	
	1935		3回忌		
戦中戦後期	1939		7回忌	十字屋版全集, 羽田書店版名作選	名作選に収録
	1940				十字屋第4巻収録

戦中・戦後期	1945	9月GHQ検閲開始	13回忌		
	1946		生誕50年	(組合版文庫)	
	1949	10月GHQ検閲終了	17回忌	新潮文庫, (珠玉選)	
	1951	日米安保条約			戯曲
高度 経済 成長 期	1955		23回忌		
	1956	「もはや戦後ではない」	生誕60年	筑摩書房31年版全集	左記第7巻収録
	1958			筑摩書房普及版全集	
	1959	岩戸景気	27回忌		普及版第7巻収録 人形劇映画
	1964			岩崎書店版童話全集	左記第4巻収録 翻案絵本
	1965		33回忌		
	1966	いざなぎ景気	生誕70年		紙芝居
	1967			筑摩書房42年版全集	英訳
	1968				42年版第8巻収録
	1969		37回忌		
	1970	大阪万博			翻案朗読カセット ラジオドラマ
	1971				絵本, 童話集, 朗読レコード
景気 低迷 期	1973	第一次オイルショック	没後40年	校本全集	
	1974				校本第11巻収録
	1975		43回忌		
	1976		生誕80年		
	1977				小学校教科書
	1978			岩崎書店版 童話全集新版	左記第4巻収録
	1979	第二次オイルショック	47回忌	新修全集	
	1980				新修第13巻収録
	1981				中学校教科書
	1982		50回忌		
バブル 経済 期	1983		没後50年	著作権保護期間満了	コミック, 朗読カセット
	1985	プラザ合意		ちくま文庫版全集	
	1986		生誕90年		文庫版第8巻, 豆本
	1988				リフィル
	1989	消費税導入			3D人形アニメ
	1990	バブル経済崩壊			朗読ビデオ
	1991				朗読CD, セルアニメ
	1993		没後60年	(ファミコン・ソフト)	

「IT革命」期	1995	Windows95：家庭用PCがインターネット対応に		新校本全集	左記第12巻，CD-ROM， バリアフリーアニメ
	1996		生誕100年		大活字版
	2000				手話ビデオ
	2001				自主制作アニメ
	2003		没後70年		新聞連載

#### 4. テキストとしての「注文の多い料理店」<地図>

原テキストのあらすじは、以下のようなものである。

都会から狩猟に来た二人の若い紳士が、山奥で道に迷い、腹をすかせて、忽然と現れた一軒の西洋料理店「山猫軒」に飛び込む。ところがなかには、奇妙な注文を記したいくつもの扉と長い廊下が続くばかり。やがて二人は自分たちが料理されるために店主から注文を受けていたことに気づき、危機一髪で犬と猟師に救われたが、恐怖で紙くずのようになった顔だけは決してもとに戻らなかった。(宮沢賢治の全童話を読む、国文学臨時増刊、學燈社、2003.)

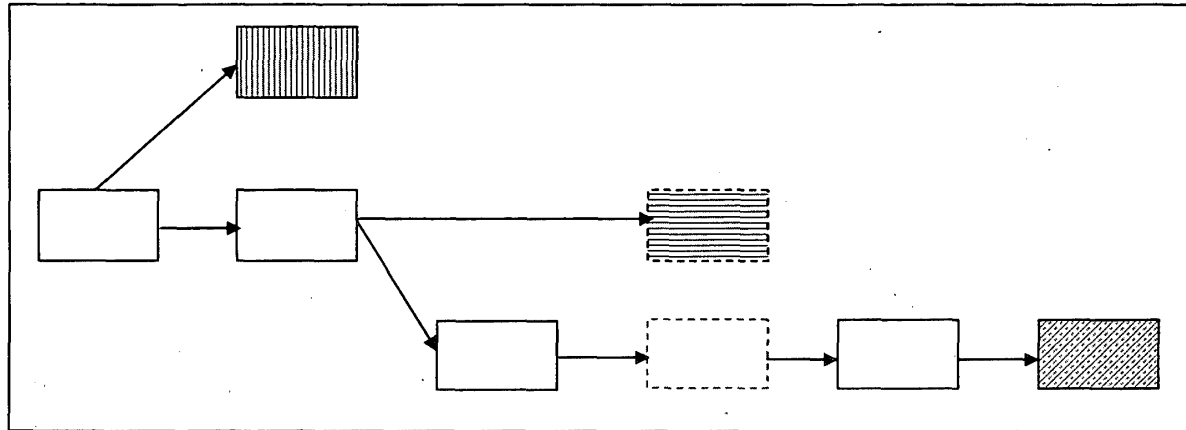
このテキストの構造は、表2に示す。

<表2：「注文の多い料理店」の基本構造>

時間経過	番号	機能	テキスト
早い (始まり) ↓ ↓ ↓ (終わり) 遅い	1	書き出し	二人の若い紳士が、 <u>すっかりイギリスの兵隊のかたちをして、ぴかぴかする鉄砲をかついで、白熊のような犬を二匹つれて、だいふ山奥の、木の葉のかさかさしたとこを、こんなことを言いながら、あるいておりました。</u>
	2	矛盾	それに、あんまり山が物すごいので、 <u>その白熊のような犬が、二匹いっしょにめまいを起こして、しばらくうなって、それから泡を吐いて死んでしまいました。</u>
	3	同一文	風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごんごんと鳴りました。
	4	反復	<西洋料理店山猫軒>という札 扉に記されたという設定で、テキスト中では括弧で括られた注文13回
	5	矛盾	そのときうしろからいきなり、「わん、わん、ぐわあ」と言う声が出て、 <u>あの白熊のような犬が二匹、扉をつきやぶってへやの中に飛び込んできました。</u>
	6	同一文	風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごんごんと鳴りました。
	7	結末	しかし、さっき一ぺん紙くずのようになった二人の顔だけは、東京に帰っても、お湯にはいっても、もうもとのとおりになおりませんでした。

表中2と3が対となり、機能としては「矛盾」を構成する。これは、「白熊のような犬」という同一の主語に対して、述語が矛盾している。次に番号3と6は、同一の文である。

自然言語処理の手法では、テキスト全体の骨格を構成する要素を抽出するために同一文や同一語の反復及び出現頻度に着目する。ハイパーテキスト試作の研究においても、この手法から原テキストの論理構造を抽出した。これは、図に示すような論理マップとすることもできる。



<図4：試作ハイパーテキストの論理マップ>

さらに、反復される「注文」については、「注文」周辺の文が以下のようなシーケンスとなっている。

【注文はずいぶん多いでしょうがどうかいちいちこらえてください。】(注文4)：注文  
 「これはぜんたいどういうんだ。」ひとりの紳士は顔をしかめました。：疑問  
 「うん、これはきっと注文があまり多くて、したくが手間取るけれどもごめんくださいと、こういうことだ。」：解釈  
 「そうだろう。」：納得

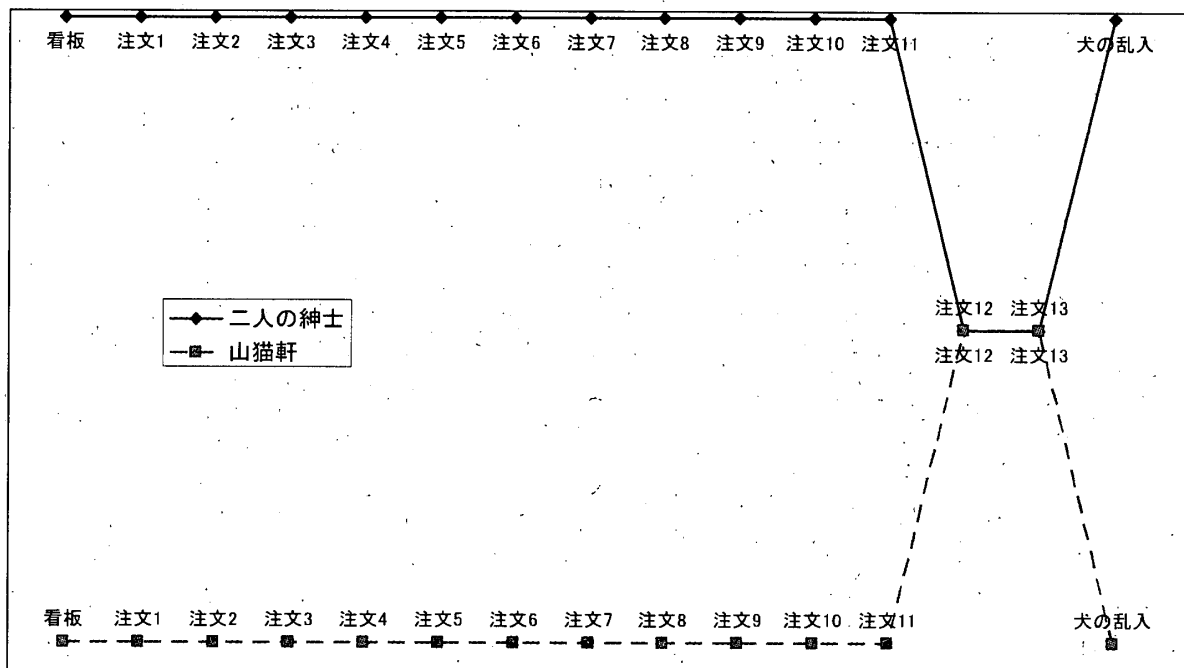
つまり、山猫軒の扉に記されている「注文」を登場人物である「二人の紳士」が勝手に解釈してそれに従うことで物語が展開されている。「注文」理解には明らかな差異が認められる。

【お客さまがた、ここで髪をきちんとして、それからきものの泥を落としてください。】(注文5)  
 「これはどうももっともだ。僕もさっき玄関で、山のなかだと思って見くびったんだよ」  
 「作法のきびしい家だ。きっとよほど偉い人たちが、たびたび来るんだ。」  
 そこで二人は、きれいに髪をけずって、靴の泥を落としました。

ここで山猫軒側の意図は食材の浄化であるが、二人の紳士は客としての作法として注文を実行している。注文通りの成果が得られるということになる。続いて注文6から8で食材を浄化した後、注文9, 10(クリーム), 11(酢)による調味は注文12で塩を振ることになる。

【どうかからだじゅうに、壺の中の塩をたくさんよくもみ込んでください。】(注文12)  
 「だからさ、西洋料理店というのは、ぼくの考えるところでは、西洋料理を、来た人に食べさせ





<図5：注文理解をめぐる差異とその解消>

るのではなくて、来た人を西洋料理にして、食べてやる家、とこういうことなんだ。」

この段階になってようやく差異は解消され、危機が露見することとなる。これまでの流れを図5のようにまとめることができる。

## 5. 初期刊本の表記<樹状図>

「注文の多い料理店」のテキストにおける初版以来の表記のゆれに関しては、秋枝美保氏による詳細な校訂が行われている。[秋枝1986]また、GHQによる検閲がこのテキストに与えた影響に関しては、谷暎子氏による研究報告がある。[谷2003]秋枝氏の研究は、初期刊本のテキストを比較したもので、ある指標において同一の校異がある刊本は明らかになるが、指標相互の共起関係までは示していない。一方で谷氏の研究は、刊本による検閲や自己規制の痕跡からテキストの復元までも明らかにしようとしたものであるが、検閲箇所という単一の指標を用いているために他の校異との関連に触れていない。そこで、両者の業績を踏まえて独自の検討を行う。秋枝氏が示した指標に谷氏が明らかにした検閲箇所を加えて各刊本のテキストを比較し、時系列変化の他に校異の共起関係を明示する。

まず、「注文」が刊本の中でどのように記されているか、使用されている括弧の形状に着目して表4に示したように分類して番号を付した。表に示した分類番号のうち、ここでは2, 3, 4について検討する。1の形状は、初版本(1924)以降に杜陵書院版(1947)を除くと31年版全集(1956)まで使用されていない。また、5~8については実例が1~3点と少なく、しかも翻案などを含むために対象から外した。

次に、テキストの校異に関して、表5のような指標を付した。表中の「指標」欄において数字は秋枝氏による校訂作業で使用されたものである。各指標のうち右端列上部に記した記号すなわちACEGIKが、新校本の表記となる。

<表4：「注文」が記されている括弧の形状分類>

カテゴリー	括弧の形状	初出(年)
1	「」	初版本(1924)
2	【】	十字屋版全集(1939)
3	『』	羽田書店版名作選(1939)
4	□	東洋書館版(1952)
5	◇	実業之日本社版(1969)
6	《》	早川書房版(1970)
7	括弧無し字体変更	キンダーおはなしえほん(1970)
8	“ ”	おはなしチャイルド(1975)

<表5：テキスト分析の指標>

指標	語句	記号	
検閲	すっかりイギリスの兵隊のかたちをして、	表記有	A
		表記無	B
11	ところがどうも困ったことは、		C
	ところがどうも困ったことには、		D
43	手に塗って	表記有	E
		表記無	F
53	もうものが言えませんでした。		G
	もうものが見えませんでした。		H
61	くるくる廻っていましたが、		I
	くるくると廻っていましたが、		J
63	二人は寒さに		K
	二人は寒さうに(さむそうに)		L

以下では、表4に基づいてカテゴリー化した初期刊本のテキストを表5の指標に基づいて分析する。同一書名であっても版や刷によってテキストが異なる場合があるので、可能な限り現物あるいはコピーを参照して詳細な検討を行った。なお、表6～8において指標のうち「検閲」を「検」、「注文」の括弧によるカテゴリーの番号を「注」と記す。また新仮名遣いのテキストには、掲載書籍名の前に「\*」印を付した。

括弧の形状として「【】」が選択されているカテゴリー2における最初の刊本は、表6に示したように十字屋版全集である。この分類の特徴は、特に検閲期のものは指標61を除く全ての指標に校異が共起するものが多いことである。もっともこれは十字屋版全集の特徴であるが、筑摩書房版小学生全集でも新かたに改めながら継承されている。なお、新版小学生全集は今回使用した指標から見ると検閲期の十字屋書房版の影響を強く受けているものであるが、既に谷氏も指摘しているように、同じ筑摩書房から31年版全集が刊行された後でも検閲による削除措置該当部分を含めて旧版のテキストを継承し、本研究において収集した資料のうち最も遅くまで検閲による爪痕を残している。

谷暎子氏の前掲研究の発表当日配布資料によると、GHQによって削除命令を受けたのは、「宮沢賢治全集第四巻(童話集中編)十字屋書店1946年3月・2版」となっている。また同資料

<表6：カテゴリー2の分析>

指 標							掲 載 書 籍	出版社	出版 年月
検	11	43	53	61	63	注			
A	D	F	H	I	L	2	A 宮澤賢治全集第4巻初版	十字屋	1940.03
B	D	F	H	I	L	2	A 宮澤賢治全集第4巻(初版1940.03)第2版	十字屋	1947.03
B	D	F	H	I	L	2	少年のための純文學選 カイロ團長	櫻井書店	1947.05
B	D	F	H	I	L	2	A 宮澤賢治全集第4巻(初版1940.03)第3版	十字屋	1948.12
B	D	F	H	I	L	2	少年のための純文學選 カイロ團長 重版	櫻井書店	1950.01
A	D	E	H	I	K	2	童話集銀河鉄道の夜 他十四篇(岩波文庫)	岩波書店	1951.10
B	D	F	H	I	L	2	*風の又三郎 小学生全集35	筑摩書房	1953.06
A	D	E	H	I	K	2	昭和文学全集14	角川書店	1953.06
A	D	E	H	I	K	2	*文芸童話集 世界少年少女文学全集30日本編3	東京創元社	1953.09
A	D	F	H	I	L	2	B 宮澤賢治全集第4巻(初版1939.07)第3版	十字屋	1953.11
A	D	E	H	I	K	2	注文の多い料理店 角川文庫 初版	角川書店	1956.05
A	D	E	H	I	K	2	*日本文芸童話集(世界少年少女文学全集23)	河出書房新社	1962.05
B	D	F	H	I	L	2	*風の又三郎 新版小学生全集34	筑摩書房	1962.09
A	C	E	G	I	K	2	*童話集銀河鉄道の夜 他十四篇(岩波文庫)	岩波書店	1966.07
A	D	E	H	I	K	2	*幼児に聞かせたいお話12か月 第3巻	ひかりのくに	1968.04
A	C	E	G	I	K	2	*注文の多い料理店 森本三郎・画	紫紅会	1988.10
A	C	E	G	I	K	2	*宮沢賢治童話 注文の多い料理店 森本三郎・画	たくみ書房	1989.04

には、「『宮沢賢治全集第四巻』3刷(ママ)は、1948年12月刊行。2版と同じに指示部分は削除して出版されている。」とある。

これらとは別に書籍の現物を確認した十字屋版全集第三版の発行年月は、「昭和28(1953)年11月」で、この版の奥付に記されている初版は「昭和14(1939)年7月」であった。装丁は、茶色の厚紙に甲虫のイラストが箔押しされている。また、同じく現物を確認した第二版の発行年月は、「昭和22(1947)年3月」で、この版の奥付に記されている初版は「昭和15(1940)年3月」、装丁は白背の厚紙で紙のカバー中央部に茶色で甲虫のイラストが描かれている。なお谷氏は、研究発表と同名の論文で十字屋書店版の宮沢賢治全集第四巻「第2版」の刊行日を「1947.3.1」と改めている。

以上から十字屋版全集は、奥付によると「昭和14年7月初版」と「昭和15年3月初版」が存在することになる。装丁の形状から前者を「十字屋茶背」(表6では書籍名の前に記号「B」を付す)、後者を「十字屋白背」(表6では書籍名の前に記号「A」を付す)と呼ぶことにする。ただし、「茶背」も「白背」も版面は同一であり、頁割も変わらない。検閲によって削除が始まったのが谷氏の指摘による「白背」第二版(1947年3月)とすると、十字屋書店による刊本は、遅くとも「茶背」第三版(1953年11月)ではテキストが復元されていたことになる。カテゴリー2のテキストが安定するのは、1966年の岩波文庫である。河出書房版は、東京創元社版と同一の版組を使用しているが、検閲部分を除いた校異は1968年のひかりのくに版まで続いている。また、1989年のたくみ書房版は絵本で、このカテゴリーに属するテキストは以降刊行されていない。

カテゴリー3は、括弧の形状として「『』」を使用しており、表7に示したように検閲箇所を除けば指標61にのみ特徴を有する。谷氏の発表当日配布資料によると、GHQによって削除命令を受けたのは、「宮沢賢治名作選 上 杜陵書院1946年5月」となっている。谷氏は検閲終了後も

<表7：カテゴリー3の分析>

指 標							掲 載 書 籍	出版社	出 版 年 月
検	11	43	53	61	63	注			
A	C	E	G	J	K	3	宮沢賢治名作選(1巻本,)第1刷	羽田書店	1939.03
A	C	E	G	J	K	3	宮沢賢治名作選(1巻本)第5刷	羽田書店	1940.11
A	C	E	G	J	K	3	宮沢賢治名作選(1巻本)第7刷	羽田書店	1941.02
A	C	E	G	J	K	3	グスコー・ブドリの傳記第1刷	羽田書店	1941.04
A	C	E	G	J	K	3	グスコー・ブドリの傳記第2刷	羽田書店	1943.03
B	C	E	G	J	K	3	宮沢賢治名作選 上(3巻本)第11刷	羽田書店	1946.05
A	C	E	G	J	K	3	宮沢賢治名作選 上(3巻本)第12刷	羽田書店	1946.07
B	C	E	G	J	K	3	グスコー・ブドリの傳記(刷表記無し)	羽田書店	1947.12
B	C	E	G	J	K	3	鑑賞 宮澤賢治選集	天明社	1949.05
B	C	E	G	J	K	3	宮沢賢治名作選 上(2巻本)第13刷	羽田書店	1949.06
B	C	E	G	J	K	3	グスコー・ブドリの傳記第10刷 PTA 文庫	羽田書店	1950.03
B	C	E	G	J	K	3	宮沢賢治名作選 上(2巻本)第14刷	羽田書店	1950.12
B	C	E	G	J	K	3	鑑賞 宮澤賢治選集	大明社	1951.05
A	C	E	G	I	K	3	*宮沢賢治集 新日本少年少女文学全集	ポプラ社	1958.10
A	C	E	G	I	K	3	*銀河鉄道の夜 日本童話名作選集14	三十書房	1962.02
A	C	E	G	I	K	3	*銀河鉄道の夜 日本童話名作選集14	あかね書房	1965.08
A	C	E	G	I	K	3	*注文の多い料理店(日本の名作) 朝倉撰・画	講談社	1971.01
A	C	F	G	I	K	3	*日本子どもの文学・6年生	国土社	1971.04

削除したまま出版されていたものとして「宮沢賢治名作選 上 杜陵書院1950年12月」を挙げている。表中では「名作選」11刷と14刷に対応する。

『宮沢賢治名作選』は同じ書名と版組で一巻本、二巻本、三巻本が出版されている。奥付から見る限り、こうした書誌の相違に関係なく発行年月に対応して刷数を増やしている。ところが、表中に記した「12刷」(3巻本の上巻)では、11刷(3巻本の上巻)で検閲により削除指示を受けた部分が復元されている。一方で13刷(2巻本の上巻)では削除されている。3巻本『宮沢賢治名作選』は上中下の各巻ごとに刷数が異なっていることから、さらに書誌の相違など検討すべき点が多いが、削除部分の無い「12刷」の存在を確認した。

また、表7に掲載した2点の『鑑賞 宮澤賢治選集』についても触れておく必要がある。公開されて一般的な書誌カタログにおいて、この書名の出版元は「天明社」で、同出版社の本社所在地は神奈川県横須賀市となっている。ところが、本研究における資料収集作業によって同一の版型と装丁を用いた「大明社」版の存在を確認することができた。奥付を比較すると、「天明社」時代の東京出張所が「大明社」本社所在地となっている。「大明社」版は奥付こそ貼換えられているが、扉頁の出版社名は「天」の印字を部分的に削り取って「大」としているものであった。

カテゴリー3は、こうした混乱があるものの検閲・自主規制期を過ぎると括弧の形状を除いて事実上校異が無くなる。三十書房版とあかね書房版は同一の版型で、講談社版は絵本である。従って指標61の校異が存在しなくなるのは、31年版全集(1956年)以降と考えられる。なお、1971年の国土社版がこのカテゴリー最後の事例であるが、これは他のテキストには無い指標43の校異を唯一有している。

カテゴリー4は、括弧に「[]」を使用するものだが、指標からカテゴリー2と同一の傾向にあ

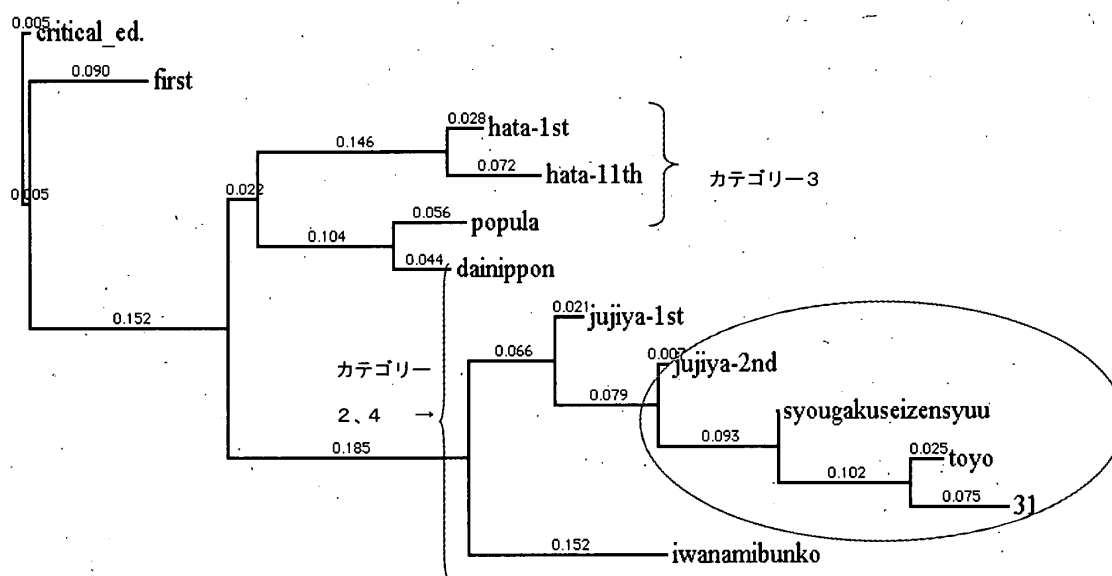
<表 8 : カテゴリー 4 の分析>

指 標							掲 載 書 籍	出版社	出 版 年 月
検	11	43	53	61	63	注			
B	D	F	H	I	L	4	*ゼロひきのゴーシュ	東洋書館	1952.10
B	D	F	G	I	L	4	*日本児童文学大系(2)童心文学の開花	三一書房	1955.08
A	C	E	G	I	K	4	*どんぐりと山ねこ (子ども図書館) 谷内六郎・絵	大日本図書	1968.01
A	C	E	G	I	K	4	*文学読本『はぐるま』8	部落問題研究所	1974
A	C	E	G	I	K	4	*注文の多い料理店 (日本の童話名作選) 島田睦子・画	偕成社	1984.06
A	C	E	G	I	K	4	*新・文学の本だな中学年1 へびだれもしらない	国土社	1985.04
A	C	E	G	I	K	4	*新訂文学読本『はぐるま』7	部落問題研究所	1990.06
A	C	E	G	I	K	4	*注文の多い料理店 (新版子ども図書館) 佐藤国男・絵	大日本図書	1993.10

ると考えられる。東洋書館版は、谷氏が指摘するように検閲期が終了しても削除したまま出版された事例の一つであるが、三一書房版も該当箇所は削除されている。削除版の最後は、前述した通りであり谷氏の指摘と相違ないが、ここに削除命令による影響の事例を一つ加えることができる。

検閲による削除も表層的な検討によって他の指標と比較してみると、局所的な現象であることが明らかになる。ここまで示した分析の結果からは、各刊本の参照状態などを類推することは可能だが、関係の全て明らかにて刊本の親子関係を特定することはできない。

そこで、7つの指標に加えて、新旧仮名遣い、「木の葉」ルビ、「そつ」又は「そいつ」の3点を新たな指標に加えた。なお最後に挙げた指標は、誤植の多い初版本の中でも最も特徴的なものである。合計10の指標を4値に置換して多重配列を作成し、国立遺伝学研究所生命情報 DDBJ



<図 6 : 刊本テキストの関係を示す樹状図>

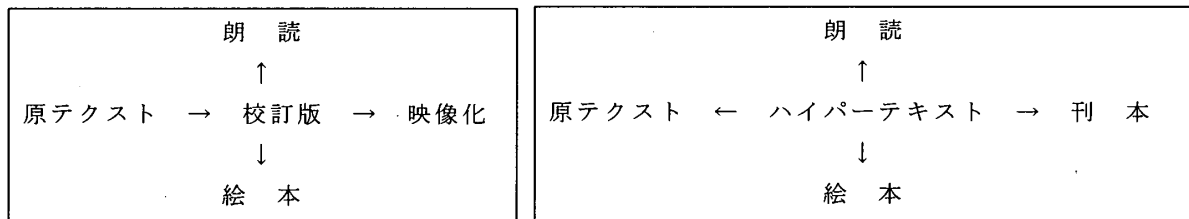
センター(<http://www.ddbj.nig.ac.jp/>)の CLUSTALW によって各配列の距離を計算した。ここで得た結果を、樹状図作成ソフト DendroMaker によって作図したものが図6である。このツールはルート要素の位置を変更することができるので、校本をルートとして作図した。カテゴリ2と4、カテゴリ3がそれぞれ分離してプロットされている。また、検閲あるいは自主規制によって削除されたテキストが類縁性の高いものとして表示できている。さらに、テキスト群をまとめているばかりか、テキストの親子関係を示すこともできる。一方でカテゴリを区別することは、一つのテキスト(大日本図書版)についてのみであるが失敗している。このようにテキストの校異をDNA配列として記号化することで、テキストを生物として位置づけることは、興味深い実験的な視座であると考えられる。しかしながら、ゲノム解析に用いられているツールをそのまま適用可能であるか否かは、なお慎重な検討が必要であろう。

## 6. まとめ

本論文で示したグラフは、一つのテキストが時間の経過によってどのように増殖するのか、また表現形態の広がり具合を概観するために作成したものであった。この目的に適ったグラフを一枚に集約することはできていない。地図については、Morettiが地理的なものを用いているのに対して物語世界の論理マップを描いたにすぎない。これは、物語内部で具体的な地名等が挙げられていないテキストを選択したことが最大の理由となる。地名が重要な構成要素となるテキストでは、文字通りの地図を用いることができる。(注)

Morettiの樹状図は、推理小説のサブジャンル生成の様態を描いたものである。本論文では一つのテキストの変容を示した。このように、本来は文学に対するマクロ的アプローチの手法を特定のテキスト研究に用いるためには、なお一層の検討が必要となる。ハイパーテキスト研究の成果から派生するものとして、特にテキスト評釈において従来の文学研究へ寄与するものがあること示したが、以下には展望を示す。

テキストをめぐる考え方からも導き出される手法として、次の段階では、原テキストからどれだけ離れることができるのか、またどのような変容が可能なのかを探る必要がある。これまでのメディア比較やメディア変換の手法では、原テキストを起点としていた。これは、生原稿や初版本を重視する従来の文献学的研究と同根のものである。そこで、ハイパーテキストを全ての比較の基準とする考え方をを用いる。



<従来の考え方>

<フローティング・ハイパーテキスト>

これは、テキストの原点をどこにするかという問題を提起することになる。しかしながら、手稿などのオリジナルを求めるのではなく、「変換」の可能性を徹底して探ることである。そのためにも、まず、テキストから流布されたものの痕跡を探る。従来の文学研究と一線を画するために、深層に立ち入ることを最大限避けあくまで表層からのアプローチを貫くことになる。

注：ジェラルド・ド・ネルヴァルの「シルヴィ」に関して、第一章で触れた Hobbs の文献では時間軸の変更があっても論理的結合性を保つテキストの事例として詳細な検討が行われている。一方で Raymond Jean は動詞の半過去で示された「現在」が全体の時制の主軸になっていることを示している。[Jean 64]これらに対して、ヴァロア地方の地図を基にシルヴィ、アドリエヌ、オーレリーという3人の女性の移動をプロットすることで「地図」利用の一例を示すことができる。シルヴィは全てロワジーを起点に移動している。

#### 参考文献

- [阿部・他 94] 阿部純一・桃内佳雄・金子康朗・李光五：人間の言語情報処理，サイエンス社，1994.
- [秋枝 86] 秋枝美保：＜テキスト評釈＞注文の多い料理店，國文学31(6)，學燈社，1986.
- [Hobbs 85] J. R. Hobbs: On the Coherence and Structure of Discourse, CSLI Report No. CSLI-85-37, CSLI, 1985.
- [Jean 64] Raymond Jean: NERVAL par lui-même, Éditions du Seuil, 1964. (入沢・井村訳：ネルヴァル，筑摩書房，1975.)
- [宮田 99] 宮田昇：翻訳権の戦後史，みすず書房，1999.
- [宮沢賢治イーハトーブ館 95] 宮沢賢治学会：宮沢賢治作品・研究図書資料目録，宮沢賢治イーハトーブ館，1995.
- [宮沢賢治学会 91-03] 宮沢賢治学会：宮沢賢治ビブリオグラフィー・同ディスコグラフィー，宮沢賢治研究 Annual vol.1-13，宮沢賢治学会イーハトーブセンター，1991-2003.
- [Moretti 03-04] Franco Moretti: Graphs, Maps, Trees, New Left Review 24,26, 28, 2003-2004.
- [森田・藤田 01] 森田均・藤田米春：ハイパーテキスト文学論，認知科学8(4)，日本認知科学会，2001.
- [森田・藤田 03] 森田均・藤田米春：小説の表現形態に関するハイパーテキストを指標とした評価方法の検討，人工知能学会全国大会（第17回）発表論文集，CD-ROM，2003.
- [森田・藤田 04] 森田均・藤田米春：文学作品のハイパーテキスト化における評価方法の精緻化，人工知能学会全国大会（第18回）発表論文集，CD-ROM，2003.
- [Morita & Fujita 04] Morita, H. & Fujita, Y.: Secondary Variations and Hypertext, Proceedings of the 18th Congress of the International Association of Empirical Aesthetics, pp470-475, 2004.
- [中西 99] 中西敏夫・編：データベース宮沢賢治の世界，出版文化研究会，1999.
- [出版科学研究所04] 出版科学研究所：出版指標・年報2004，出版科学研究所，2004.
- [田中 79] 田中純一郎：日本教育映画発達史，蝸牛社，1979.
- [谷 03] 谷暎子：占領下の検閲と賢治童話，宮沢賢治学会イーハトーブセンター第13回研究発表会記録集，2003.
- [渡辺 96] 渡辺泰：賢治映像全データ，宮沢賢治の映像世界，キネマ旬報社，1996.

付記：本論文は，平成15～17年度文部科学省科学研究費（萌芽研究）補助金（課題番号：15653034）による研究成果の一部である。